

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立旭竜小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒703-8254
岡山県岡山市中区八幡8番地1

E-mail kyokuryus@city-okayama.ed.jp

Website http://www.city-okayama.ed.jp/~kyokuryus/

幼児児童生徒数 男子94名 女子71名 合計165名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「わたしがすき あなたがすき みんな輝く旭竜っ子の育成」を学校教育目標とし、ESDの取組を学校づくりの一つの柱として指導の重点に位置づけ、自分と地域とのかかわり方と未来を考える力の育成を目標とした。

具体的には、障害者福祉、高齢者福祉、地域の歴史学習を柱に、①ユニバーサルデザインに等に関する調べ学習、障害者体験にかかわる活動、②「福祉のまち・旭竜」を意識し「地域での支え合い」をテーマにした高齢者福祉学習、③地域の歴史文化遺産に触れたり、調べたりする学習に取り組んだ。

① ユニバーサルデザインに等に関する調べ学習、障害者体験に係わる活動

「障害者福祉」を柱に学習を行った。ユニバーサルデザインについての調べ学習やアイマスク体験、車いす体験などの体験学習に取り組むなかで、体が不自由な方の思いに気付き、よりよい社会に向けて自分たちにできることは何か児童一人一人が考えることができた。

②「地域での支え合い」をテーマにした高齢者福祉学習

「福祉のまち・旭竜」を意識し、「地域での支え合い」をテーマに学習に取り組んだ。地域にある介護付き老人ホームを訪問し、昼食の配膳の手伝いをしたり、認知症予防のための地域の交流場所を訪問し、レクリエーションを楽しんだり、地域のボランティアの手伝いをしたりした。交流を通して助け合いの大切さを学び、自分も役に立ちたいという思いをもつことができた。地域の方がつながりを深めていこうとされていることに気づき、これからのために自分は何ができるか考えることができた。

③地域の歴史的遺産に触れたり、調べたりする学習

高島中学校区の史跡について郷土史家の先生の協力のもと学習を進めた。1回目は旭竜小学校区に残る史跡（備前八幡宮など）を巡り、2回目は、範囲を広げて高島中学校区の史跡や神社（賞田廃寺跡など）を巡った。児童は、実際に史跡などを見ながら説明を聞くことで、昔の人々の暮らしに思いを馳せ、学びを深め、調べたことなどを模造紙やパワーポイントにまとめて発表会を行った。これらの活動を通して、地域の歴史・文化への理解を深めるとともに、地域の宝を守り引き継いでいこうとする思いを育てることができた。

① 車いす体験



② 介護付き老人ホームで配膳



③ 歴史探検



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

岡山県企画振興部 ・パンフレット「ももっちと見つけるユニバーサルデザイン」 国土交通省 岡山河川事務所 ・パンフレット「百間川小史」 盲導犬協会のホームページ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ユネスコスクールとしての活動の目標を、主体的・創造的・持続可能性の課題を解決する態度や能力や自分と地域とのかかわり方と地域の未来を考える力の育成として、「総合的な学習の時間」において取組を進めた。ESDの活動を、指導の重点に位置づけ、学習したことが自分の生き方と結び付けられるような単元計画を教育課程編成会議の中で、検討し次年度に積み上げていっている。また、対象との体験的なかかわりを通して課題に気づき、解決していけるような単元計画を作成するようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESDの活動年間指導計画や各学年の目標を明確にするとともに、学年間の系統性・持続可能な課題になっているかについても、研究推進委員会や教育課程編成会議の中で検討し、成果と課題を明らかにしながら、学校全体で組織的かつ継続的に取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESD事業推進にたっては地域コーディネーターとの連携のもと、地域のボランティアを積極的に活用し活動を進めている。年度初めの学校評議員会では、ESDの活動年間計画について報告し、地域コーディネーターや委員の方々から活動内容や年間計画について助言をいただいた。年度の終わりの学校評議員会で、活動実施報告（成果と課題）を行い、本年度の取組の評価をいただいている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

中学校区で、取組について情報交換し、良い面は取り入れたりお互いに助言したりした。また、学校評議員会や旭竜学区コミュニティ協議会の定例会議で成果と課題について報告している。

報告を受けて、地域の方より課題についての助言をいただくことができ、新しい取組を考える一助となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域コミュニティとの連携を大切にしているので、活動のねらいに応じた地域の人材に協力を求めることができた。毎月旭竜学区コミュニティ協議会定例会でESDの活動報告を行い、内容、計画、人材について意見をもらっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

岡山市教育委員会主催の「ユネスコスクール推進校連絡協議会」に参加して、その場を活用して他のユネスコスクールと活発な意見交換を行うことができた。

同じ規模の学校と互いの共通した課題について、それぞれの解決策を発表し合うことは、大変意義があった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

児童は、地域にはたくさんの高齢者が住んでおり多くの人々がその方々を支えていることを理解することができた。そして、旭竜学区に住む一人として、自分も高齢者に目を向けて思いやりの気持ちをもって接し、地域の担い手として、自分たちができることを考え始めることができた。これらの活動を通して、自分と地域とのかかわりや、将来の生き方をも考えることができた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

○みんなにやさしい町 ~旭竜学区~

〈車いす・アイマスク体験〉4年生

- ・福祉に関心をもち、福祉について調べたり、福祉体験をしたりして、調べたことをまとめて発表し、自分のできる福祉活動を実践していくことができるようにする。

○みんなにあたたかい町 ~旭竜学区~

〈高齢者との交流〉5年生

- ・お年寄りとのふれあいを通して、お年寄りをはじめとした社会的弱者への理解を深め、自分にできることを考えることができるようにする。

○美しい郷土、未来へつなげ

〈歴史探検〉6年生

- ・高島中学校区の歴史遺産についての講話を聞いた後、地域にある史跡を見学し、歴史ある旭竜学区のすばらしさに気づき、進んで地域の歴史を調べ、レポートや新聞にまとめることができるようにする。